

8-3

馴染みの環境・生活・関係づくり研究会

意図的に配慮されたケアへの取り組み

認知症ケア

個別ケア

中野区かみさぎ特別養護老人ホーム

生活相談員 湯浅 豪

東京都中野区上鷲宮3-17-4

樋口実、瀬沼悠哉、林亜矢子、北崎悟、秦みず恵

喜多祐荘(東海大学) 古賀誉章(東京電機大学)

03 - 3926 - 8443

E-mail info@m-kamisagi.jp

03 - 3970 - 9620

http://www.m-kamisagi.jp

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人武蔵野療園を母体とし、昭和63年に開設。入居100床、ショート16床で運営している。他に通所介護(一般型、認知症型)、居宅介護支援、訪問介護、地域包括支援センターを併設している。

〈取り組んだ課題〉

かみさぎホームでは、認知症ケアの充実を図るため、認知症利用者の馴染みの環境を整備し、馴染みの生活を実現し、利用者・職員の馴染みの関係をつくることを目的に取り組んできた。

〈具体的な取り組み〉

- ・ 会話を通して本人の馴染みの世界を理解する。
生まれ育った環境、仕事、趣味、楽しかったこと、得意だったこと等本人・家族から聞き取りを行なった。記憶の強い時代や本人の中での生活時代を知り、本人にとって馴染みの環境の情報収集を行なう。
- ・ 五感を刺激して本人の好みのものを発見する。
会話を通して得られた情報を基に、馴染みのある場所に出掛ける、実際に行なう等、実際に馴染みに触れることを通して、本人の馴染みを確認した。
- ・ 馴染みの世界・好みのものを取り入れた環境をつくる。
会話や実践を通して得られた情報を基に、環境設定を行なう。改修工事と合わせて、馴染みの小物を揃えるよう取り組んだ。
- ・ 改修工事の成果を評価する。
改修事前後の利用者の生活や行動に変化が生じたか、改修場所ごとに使われ方に変化が生じたか、実数調査や追跡調査で確認を行なった。
- ・ 意図的に配慮されたケアへの取り組み
改修場所を生かし、馴染みの生活づくりを実現するために意図的に配慮されたケアへ取り組みをしている。

〈活動の成果と評価〉

- ・ 場所はあるだけでは十分に使われないことが分かった。
- ・ 利用者の生活歴を深く知ることができた。
- ・ 利用者の行動の癖や意味の背景が理解できるようになった面があり、新たな発見に繋がった。

〈今後の課題〉

- ・ 研究会での取り組みのため、研究会以外の職員への認識が不十分である。ホームのケアとして定着させていくために、全職員を対象とし段階的に取り組んでいく。
- ・ 共有部分を地域に開放し、生活の一部として地域の方と交流のある、普通の生活の実現に取り組む。

※この研究会は、三井住友海上財団より研究助成金を受けて実施しています。